

心配な時には、専門機関に相談してみましよう。

- 仙台市北部発達相談支援センター（北部アーチル）
TEL（022）375-0182
- 仙台市南部発達相談支援センター（南部アーチル）
TEL（022）247-3852
- 宮城県医師会ヒヤリングセンター
TEL（022）227-4411

平成18年1月編集・発行
平成21年1月改訂
平成24年9月改訂
令和7年3月改訂
仙台市こども若者局
幼稚園・保育部 運営支援課

保育者からの
メッセージ



言葉がスムーズに出てこなかったり、うまく聞き取れないなど「うちの子、大丈夫かしら？」と心配することはありますか。そんな時は、あせらず次のような対応を試してみましよう。



うまく言葉が出てこないみたいで…心配だわ！

「ぼ、ぼ、ぼくね」
「ぼ-----く」

「き、き、きのう」
「き-----のう」
「……………っきのう」



- ★吃音といわれる状態で“話し方のくせ”のようなものです。大人の接し方が原因ではなく、こどもの体質によるものとされています。話す場面や時期によって出たり出なかったりします。
- ★吃音が出た時に、大人が一喜一憂しないことが大切です。
- ★こどもの話を最後まで聞いて一呼吸おいてからゆっくりと話しかけましょう。そうすることで、こどもも“聞いてもらえている”“ゆっくり話していいんだな”と安心します。

本人の声

- ❖真似されたり、笑われたりするから話したくなくなる。。
- ❖話し終わるまで待ってもらえない。
- ❖“ゆっくり話していいよ”“落ち着いて”“ふざけないで”と言われるけど、ふざけているわけではないのにな。急いでいるつもりじゃないのに。



発音がうまくできない…

「てんてい」（せんせい）
「おたーたん」（おかあさん）

「おたーたんと いっとな
しゃたな みたの」
（おかあさんと いっしょに
さかな みたの）



- ★言い直しをさせたりせず、大人が「せんせいね?」「おかあさんといっしょにさかなみたのよね（みだんだね）」と復唱し、こどもが正しい音を聞く機会を作ることが大切です。
- ★こどもの話す意欲を大切に、相づちをうったり、最後まで話を聞いて、“話してよかった”“伝わってうれしい”と感ぜられるようにするといいですね。



吃音の症状は波があることもあります。発音が完成する時期にも個人差があります。吃音が続いている場合や、発音の誤りが心配な時、周りの人が話し方に気付いてくる頃（年中～年長）には、専門機関に相談する方法もあります。（裏面に紹介しています。）